

ロスキレ市長表敬訪問 Ms.Joy・Mortensen

ジョイ・モーテンセンさん

レポート：中嶋浩美

★ロスキレ市役所に出発

ダンホステルで朝食を済ませた後、徒歩にてロスキレ市役所へ出発。ちょうど通勤や通学時間だった為、人通りも多くデンマークの日常風景を垣間見ることができました。歩いていると走行中の車が信号のない横断歩道に人が立っていると、どの車もきちんと停止してくれて歩行者に優しい社会だと思いました。



<Ms. Joy・Mortensen 36歳>

★市役所到着

市役所は元県庁舎で市役所の庭と表現するにはあまりにも広い敷地にマッチした建物と一面の芝生と、ところどころに木々があり木陰で休憩したら気持ち良いだろうと感じ実はここは公園では？と思わせる雰囲気でした。まだ早い時間だったからかは不明で質問もし忘れましたが、市役所のドアはロックされており職員の方に開けていただきました。市役所内も広く開放的でゆったりとした造りになっており美術館や博物館と言っても良いのでは？と思ってしまい、わたしが見たことのある日本のいくつかの市役所とは全くイメージが違いました。広い部屋に通されると飲みものやフルーツの盛り合わせがテーブルに用意されており日本から来た研修生を温かく歓迎をして下さっているのを感じとても嬉しく感じました。

たしたち一人一人に握手をし、親しみを込めて歓迎して下さいました。市長は15歳の時に市議会議員になり市を変えたいと思ったそうです。自分が住んでいたところが経済的に裕福ではなく若者の失業率も多かったので、自分の力で変えられればというのが動機だそうです。25歳でロスキレ市の市議になり、副市長だった時に前市長が60歳で退職する際に市長を引き継がないかと声を掛けられ「こういうことは人生で一度しかないだろう。上手く行くかダメになるかの賭けに飛び乗った」と、思い切りの良さを感じ「年齢がどうのこうのではなく、どういうアイデアを持ち、そのことに対しどれだけの情熱を向けるのかというのが大事で若いわたしの強みでもある」と自信に満ちた表情が印象的でした。

★ロスキレ市長は若い女性

Ms. Joy・Mortensen (ジョイ・モーテンセン) 氏。36歳でロスキレ市長を5年間務める知的でエネルギッシュな女性です。わ

★ロスキレ市

ロスキレ市は歴史と伝統の深い町で大聖堂とバイキングミュージアムだけでも歴史を語ることができ、また、発展の町で

もあります。首都のコペンハーゲンとも近く、コペンハーゲンの発展と共にロスキレ市も発展しており「歴史」「文化遺産」「発展」の3つをいつもとても大事に考えています。どうして大事なのかというと世界はグローバル化が進み、グローバル化が進んでいるという事は日常生活の不安にも繋がりが、根っこのない足元に揺らぎを感じてしまう時もあるそうです。そのような時に歴史を認識する事で安心感を覚えるそうです。以前ではコペンハーゲンはコペンハーゲン、ロスキレはロスキレと違う場所、違う町としてとらえていましたがロスキレ市民もコペンハーゲンまで通勤するようになり、また、グローバル化の時代に首都と共に発展していこうという考え方になったそうです。今のコペンハーゲンとロスキレ市はお互いに経済的に発展していくメリットも生まれたそうです。又、ロスキレ市民もハイレベルな教育を受けた人が多く色々な重要なポストに就くことができ、違った視点で物事をみることができ、市の経済等の問題を今までは市が対策を行うだけだったが、今では市の問題を市民に投げかけ、協力を得る事が可能になってきているそうです。

★ロスキレ大聖堂

ロスキレ大聖堂は1000年の歴史がありカトリック教からルーテル教に変わってもシンボルとして残っています。デンマークの歴史がつまっている大聖堂を難民が移住してきた時に文化遺産としてロスキレ大聖堂を知って貰い、デンマーク人の歴史や考え方を知って貰うことでデンマーク人は古い歴史を持ち、また、新しいことにも挑戦していることを伝えるシンボルにしています。

★自然

自然もロスキレ市にとって重要なもので国立公園の一環にもなっており、自然を守り自然を大事にしており市長曰く、「ジムに行き運動するよりも自然の中で体を動かす方が気持ちいいでしょ」と笑顔で話されました。

★バイキングミュージアム

バイキングミュージアムは歴史と今がコネクション（繋がり）している良い例です。バイキングミュージアムは古いバイキング時代の船を集めて展示しているだけではなく、昔のバイキングのボートを製作し自分で何を勉強していいかわからない若者たちがたくさんいて、その若者たちに手や体を使って昔の、バイキングのボートの複製を作ることにより、ものづくりと共に歴史を知り、良い経験にもなり若者たちは自分への自信や肯定感を得ることができ、非常に大事なプログラムでもあるそうです。博物館という役目だけではなく教育の一環でもあるそうです。

★ロスキレ市の教育

86,000人の市民を統括する7500人の公務員がおり3つの組織に分かれています。児童保育75ヶ所、小・中の国民学校18校、ロスキレ市で学んでいる義務教育後の学生数は25000人でロスキレ市だけでなく他の地域からも学びに来ており、2校ある大学の学費は無料で恵まれた環境です。無料の教育は税金で支払われており税金も教育を行うことにより個人や社会に還元されハイレベルなソサエティー（地域）を作り、上げることが出来るかと考えると資本を掛けているのと同じことで決して無駄なことではなく、デンマークの福祉社会の中でずっと継続して欲しいと願っ

ているそうです。人々が教育を受けるということは国の為にもなるという事で、皆、ハイレベルな教育を行うことではなく、その人に合ったレベルの教育を行っていくことにより、国に貢献できる人材を作っていくことにもなるそうです。

★ロスキレ市の議会

ロスキレ市の議会は 31 人の議員（7つの党から選出）その下に3つのアドバイザーコミュニティがあり、市民の代表とのコミュニティがあります。昔は議会の決めたことに市民はしたがってましたが、現在はツイッター等に色々な市民の声が届きその声も近代的な政治家として、また、市民の代表として目を配らなくてははいけないそうです。

★ロスキレ市の現在の問題

水害の問題：ロスキレ市は水路がたくさんあり豪雨になった時、水害の被害を受けた家がかかなりあったそうです。

音楽の問題：教育に音楽をいかに取り入れていこうか協議にかけられているそうです。

★市民と共に解決策を

水害の例では被害を受けた家がかかなりあり誰が賠償責任を負うのかとなると、国はお金がない。市もなかなか拠出できないという時に市だけで悩むのではなく市民と共に解決策を考えていくことは、効果的で市民も自分の問題として取り組むことができ、また、新しいことを行う時も市民と一緒に考えていき市民は自分の税金の使い道を納得し、そして共に解決策を考えていくそうです。

★行政のチャレンジ

今まで高齢者福祉とは優しい福祉（何もかもヘルパーさんが行う優しい高齢者福祉）を行っていたが、財政的な問題も抱えており新しい発想でヘルパーが食事や掃除を行うのではなく、ロボットや大勢のボランティアを導入し孤独でさびしいお年寄りに孤独を感じさせず楽しく暮らせる様に、これからのヘルパーは色々なボランティアの人たちを繋げるコネクターの役を仕事の中の一つとして担っていき、ケアスタッフがハイレベルな教育を受けることも大事なことです。

★ロスキレ市長表敬訪問を終えての感想

約一時間という短い時間でしたがわたしたちの為に貴重で忙しい時間を割いて下さった市長に感謝し感激しました。市長は身振り手振りでもわたしたちにしっかりと伝わるようにオーバーアクションで力強く話す自信に満ちた女性でした。澤渡夏代ブランド氏のレクチャー(デンマークの子育て事情)と重なり、デンマークの教育を行うとこういう女性が誕生するのを感じました。市民と共にロスキレ市を発展させていく姿勢と実行力、行動力がある素敵な女性でした。わたしも含め日本人は政治に関しては関心が低く、地元の自治体が何を行っているのかなどあまり興味を持ったことはありませんでした。自分の住んでいる自治体が何を行っているのかもっと知るべきだと思いました。また、子どもたちがもっと政治に興味を持つようなカリキュラムがあっても良いのでは？と感じました。最後に市長よりわたしたち一人一人にカード付きの小さなノートをプレゼントしていただき、このノートを大事に使用しこの意義のある訪問を忘れないようにしていきたいと思います。